

持ち上げられるヘルパーさんはへボ記者の操作に不安げ…



18 マッスルスーツ の巻

突撃！体験隊

記者が見た現場



SF映画で見るロボットスーツとはずいぶん違い、手軽である。デバイスが背中を背負うような本体は重さ5kg、腰ベルトを締めても拘束感はない。



A字型フレーム内に圧縮空気で伸縮する人工筋肉を内蔵

い。腰から伸びるプレートをももにかぶせる。カパカパで心もとない。かがんだ姿勢から半信半疑で人工筋肉に圧縮空気を送り込む。プシューッとおおっ／＼太もものプレートを支点に、腰の板が

西沢亮 記者 (にしざわりょう)

早大理工学部に入社したもの、優秀な級友を見て2カ月で路線変更。哲学や文学の単位で卒業した筋金入りの隠れ文系。32歳、東京支局勤務。(カメラ 編集委員・田山浩一)

西沢亮 記者 (にしざわりょう) 早大理工学部に入社したもの、優秀な級友を見て2カ月で路線変更。哲学や文学の単位で卒業した筋金入りの隠れ文系。32歳、東京支局勤務。(カメラ 編集委員・田山浩一)

では、スタッフ2人で高ついで浴槽に降ろすところ、間違えてチューブを吸ってしまった。ヘルパーさんがかかむのに伸び上がっていく私。正解は、一度吸ってス

介護の仕事 腰痛から解放

介護スタッフと学生が改良点を議論



の新人研修も体験したが、車と寝室を11往復する搬入作業は楽ではなく、中腰で体を洗う作業も負担は大きい。最後に浴槽を車に積み終えると、腰に力が入らな



定年まで働く

いい」と伊藤取締役はいう。東京理科大学の小林宏教授は、介護、物流、農業な

アシスト無しでは腰に大きな負担も安全なうえ「マシンに任せすぎに意見を出し合って開発を進めている。

試験導入へ着々

構造がシンプルなマッスルスーツは、実用化に最も近いロボットスーツの一つだ。泣き所は圧縮空気のコ

新人研修も挑戦

(1面から続く)

突撃！体験隊

記者が見た現場



アサヒサンクリーンは1977年に国内で初めて訪問入浴サービスを事業化、現在は訪問介護やデイサービスなど各種介護サービスを提供する。訪問入浴は看護師と介護ヘルパー、オペレーター

18 マッスルスーツ の巻

「ぶつかる」開発に現場の声

搬入・搬出を含め1軒あたりの所要時間は約45分で、年末のピークには1日10軒近くを回る。介護の現場は体力がなければとまらない。厚生労働省の調査によると、一人で動けない

アサヒサンクリーンもさまざまな研究開発を進めており、かつて20kg以上あった浴槽はカーボン製で約10kgまで軽量化した。伊藤高規取締役は「腰の負担を軽減し、いかに定年まで働いてもらうかが重要な経営課題」という。ロボット

「反転するとき、腰に何かぶつかって痛いです」「腰をひねることは多いのですか？」

「部屋が狭くて浴槽とベッドの間隔が30センチという

(水曜日に掲載)

読者の声